

酒田特別支援学校知的小学部 算数科3段階

数と計算	20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。		11~20までの数について、10のまとまりと「そのほかにあといくつ」と分けて数える。	「10個と3個」に分けたとき、13個であることを確認する。				
	100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。			100までの数について、10個と残りいくつに分けて数える。	1つの枠に10ずつ数えて貼る10のまとまりがいくつあるかを数えて、何十個か答える。			・100個あるイラストを見て量感をもつ。 ・イラストの個数を数えて鉛筆の線で10個ずつ囲む。 ・1から100まで、順番に数字を記入する。 ・記入後、指導者が指さした数字を読む。
	数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えること。							
	数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。			10のまとまりと「そのほかにあといくつ」と分けて数える。	・丸磁石を10個ずつ数えて10個並べる ・左側に残った10未満の数を合わせていくつか答える。			
	具体物を分配したり等分したりすること。							
	加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。							
	加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。							
	1位数と1位数との加法の計算ができること。			二つのお皿の餃子を合わせて何個か答える。				
	1位数と2位数との和が20までの加法の計算ができること。							
	減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。			元のスイカの数と食べてしまったスイカの数を口頭で伝え、数字を書かせる。残りの数を確認する。				

	減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。						
	20までの数の範囲で減法の計算ができること。						
図形	ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。						
		教室にあるものを丸、三角、四角に分類する。	真っ直ぐな線で囲まれた三角や四角の色板を選ぶ。	身の回りの本やごみ箱から、丸や三角、四角の形を写し取る。	四角や三角に切り取った画用紙の一部分を提示して、かたちクイズをする。		
	具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。						
		ストローとモールをつなげて、三角や四角をつくる。					
	前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。						
	5までの数で、左右どちらから何番目が数えて答える。						
	傾斜をつくと角ができることを理解すること。						
測定	長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。						
	身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。						
	日常生活の中で時刻を読むこと。						
	時間の単位(日、午前、午後、時、分)について知り、それらの関係を理解すること。						
	ものとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表し						

データの活用	同じ名前、図に表して整理したり、それらを読んだりすること。					
	身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。					

最終更新日：令和5年1月30日